



清目錄一(5) 徒環器

長野市出身。二年前の春
据えている。



一年前の春



(上から) 新藤隆行さん、池田
宇一さん、角谷眞澄さん

や破壊的叩き回し修法MEPなど)で写されるわずかな影から、隠れた病態を解き明かす「読影」が専門。診断だけでなく、治療面でも期待が高まる放射線医学。「地域の医療機関と協力して高い水準の医療を実現するネットワークの構築を目指したい」(敬称略)

新治療法の確立／入試で県出身者粹



「父が医師で、その背中を見て育ちました」と話す米山文子さん

大学院の助手から大学院
臓器発生制御医学講座の教
授に大抜てきされた。「ゼ
ロからのスタートで苦労も
あるが、この年代でなけれ
ば思い切ったことはできな
い」。東大病院で毎週、当
直を勤めていた生活は一
変。動脈硬化や心筋梗塞な
ど循環器疾患について、遺
伝子改変マウスを使い、詳
しい発生のメカニズムを研
究室で探っている。

これまでに、他の遺伝子
の働きをコントロールする
遺伝子KLF5の機能を発
見。血管を新生させる物質
アドレノメタデュリンの働き
を突き止めるなど、新たな
治療法の可能性を広げた。
「各分野の専門家と協力し
て新しい取り組みとアイテ
アで勝負して行きたい」

ほは切れてもまた生えてく
るでしょ。人間の骨髄液の
中にも、様々な器官を再生
させる細胞があるんです」
五年前、糖尿病の悪化な
どで足の切断を余儀なくさ
れる患者に、骨髄から血管
を再生する単核球細胞を抽
出して血管の詰まつた部分
に注射。血管を再生する世
界初の治療を自治医科大学
行った。「自分の骨髄液を
使うからリスクも少ない。
これまで足を切るしかな
かった患者さんから大変喜
ばれた」。医学は日進月歩。

最先端だったこの治療法は
今、全国の三十病院で三百
例を超える標準治療とな
えた。近い将来、心臓の血
管を再生させる治療を見

像された臨医医学部として、信州大医学部。県内唯一の医学部として六十年余の歴史を重ね、最先端の医療に挑む現代の上医が集う。命を救い、病を癒やす医療の一端を探るとして、熱い使命感とチャレンジ精神が脈々と流れている。

紀行

松本市 信大医学部

最先端医療に挑む熱い思い

に里帰り 大学院と付属病院の教授を兼任して研究室から臨床までを任される激務だが、「講演会で県内各地に招かれると『お帰りなさい』と声をかけていただけ。皆さん、温かい。生ける。皆さんは故郷じやななければ、これまで故郷じやなれば、」んなに一生懸命はやれません

の大学院生 米山文子(22)は心臓超音波画像診断を学ぶ。父の威久(57)は国立松本病院副院長で泌尿器科の権威。深夜、患者の急変で電話がかかるべくと、何も言わずに家を飛び出してゆく父の背中を見ながら育つた。『普段の父とは別人のよう』で格好良く見えました。そんな小学生の時に抱いた夢を実現させ、「今は先輩の医師や患者さんから見守って育てて頂いているだけ。研究や診療を通じて故郷に貢献できるように

*
たれい。」 程やかな笑顔
に秘めた決意は固い。